

2025（令和7）年度 出前講義パンフレット

目 次

分 野	頁
*国語教育	2
*社会科教育	3
*数学教育	4
*理科教育	5
*音楽教育	6
*美術教育	7
*保健体育教育	7
*情報・技術教育	8

分 野	頁
*家庭科教育	9
*英語教育	9
*学校教育	10
*幼児教育	11
*障害児教育	11
*環境教育	12
*教職大学院	13

2025(令和7)年度 出前講義パンフレット

分野	講義題目	講師	専門	対象	内容
国語教育	近江国と和歌	井ノ口 史 (いのぐち ふみ)	日本古代文学	生徒(中・高) 教員(中・高) 保護者・市民一般	古代から近世まで、それぞれの時代背景を踏まえつつ近江国に関連する和歌を紹介します。近江国(現在の滋賀県内)には、和歌に詠まれた地名が少なくありません。いかなる風景が描写されているのか、和歌を通じて近江国の魅力を再発見することをめざします。
国語教育	書とその周辺	中村 史朗 (なかむらしろう)	書道	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	人はどのようにして「書之美」を自覚するようになったのでしょうか。王羲之や空海の筆跡はどこがそんなに上手いのでしょうか。生活の場において“手書き”の機会が減って、書という表現の領域は失われてしまうのでしょうか。書と周辺のさまざまな問題を取り上げます。講義と実習をあわせて実施することも可能です。
国語教育	国語教育における学びの探究	長岡 由記 (ながおか ゆき)	国語教育学	教員(幼・小・中)	近年、さまざまな言語活動を取り入れた国語学習が行われています。国語の学習における学びの手応えは必ずしも得やすいものではなく、言語活動を取り入れた学習の成果と課題も明らかになりつつあります。そこで、演習を交えた講義を行い、国語教育における学びについて具体的な学習材や学習指導法を取り上げながら探究していきたいと思います。
国語教育	方言を考える	松丸 真大 (まつまる みちお)	日本語学/方言学	児童・生徒(小・中・高) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	ひとくちに日本語といっても、その内実は人によって、または場面によって異なります。その中でも地域による言葉の違い(＝方言)は多くの人が興味を持つテーマです。この講義では日本語の方言をとりあげ、なぜ・どのように方言があるのかを考えていきます。この授業を通して、言葉について考えることの楽しさに気づいていただければ幸いです。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
社会科教育	地理から考える物語の舞台	安藤 哲郎 (あんどう てつろう)	地理学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・特) 市民一般	説話などの古典を読むと、いくつか地名が出てきます。こういった地名と物語の内容を手がかりとして地図を作りながら考えると、物語が作られた時代の人々が物語の舞台となった場所についてどのような認識を持っていたのか分かります。地図やパネルを使いながら、地理から物語の舞台について一緒に考えてみましょう。
社会科教育	史料を基礎とした日本史(前近代史)	宇佐見 隆之 (うさみ たかゆき)	日本史学／ 日本中世史	児童・生徒(小6以上) 教員(小・中・高)	歴史の記述は、すべて史料に基づいて行われています。このため、記述の背景にある史料の理解なしに理解できません。史料と教科書の記述を照らし合わせながら日本前近代史への理解を深めましょう。
社会科教育	論理学初歩	齋藤 浩文 (さいとう ひろふみ)	哲学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	論理学への入門として、以下の2つのいずれか、または、両方について講義します。 (1) 形式論理学の初歩について紹介しながら、論理とは何か、そして、論理的であるとはどういうことかを考えます。 (2) 非形式論理学を背景として成立したクリティカル・リーズニングについて、その基本の紹介と実践を目指した演習を行います。
社会科教育	滋賀の近代史	馬場 義弘 (ばんば よしひろ)	政治学／歴史学	市民一般	明治前期に滋賀県の県令(のちの県知事)を務めた松田道之(初代、明治4年11月～明治8年3月)、籠手田安定(二代、明治8年5月～明治17年7月)を中心に、近代国家の形成と滋賀県政について考えます。
社会科教育	社会調査に触れる	宮本 結佳 (みやもと ゆか)	社会学	市民一般	近年、パソコンを利用する機会が増え、表計算ソフトが身近になったこともあって様々な場面でアンケート(質問紙調査)を実施する機会が増えています。本講義ではアンケートをつくる時、一体どのようなことを気をつけていけばいいのかについてご紹介します。
社会科教育	身近な事件や話題をもとに法・裁判の役割を考える	渡邊 暁彦 (わたなべ あきひこ)	法律学／ 日本国憲法	児童・生徒(小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	私たちも「裁判員」として裁判に関わる時代となりました。法や憲法、そして裁判に対する関心も高まっています。本講義では、最近の身近な事件や話題を取り上げ、実際の判決文なども活用しながら、日本国憲法や裁判についての理解を深めていきたいと考えています。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
数学教育	正多面体とその数理	篠原 雅史 (しのはら まさし)	離散幾何学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・高・特) 保護者・市民一般	正多面体はプラトンの多面体として古くから知られていて、正四面体、正六面体(立方体)、正八面体、正十二面体、正二十面体の5種類があります。実際に正多面体を作ったり、展開したり、計算したりすることを通して、正多面体の対称性やその美しさを体感してもらうことを目標とします。
数学教育	無限の考え方	神 直人 (じん なおんど)	解析学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	私たちは小学校の頃から無限の考え方を利用しています。無限の考え方を利用すると多くのことが明らかになる一方で、無限のパラドックスというものも存在します。この無限の持つ二面を紹介することで算数・数学の面白さ、考えることの楽しさに気づいてもらえればいいと思います。
数学教育	非線形現象の解析	鈴木 宏昌 (すずき ひろまさ)	解析学	生徒(高) 教員(中・高)	私たちの身の回りで見られる様々な非線形現象は、しばしば数理モデル方程式で表されます。本講義では、数理生物学における生物個体群のモデルや、化学反応のモデル方程式の解析を通じて、数学と自然科学との関わり的一面を紹介します。モデル方程式にもとづいた計算機シミュレーションも紹介する予定です。
数学教育	江戸時代の数遊びから見る現代数学	長谷川 武博 (はせがわ たけひろ)	代数学	生徒(高) 教員(中・高)	江戸時代の和算家 吉田光由(みつよし)によって書かれた和算書「塵劫記(じんこうき)」に収録されている文字遊び・数遊びに「目付字(めつけじ)」・「継子立(ままこだて)」などがあります。これらの遊びを紹介し、その背後に隠れている数学を考えます。具体的にはn進法や数列などが隠れています。
数学教育	数学的ジレンマを使った対話による算数・数学科授業	渡邊 慶子 (わたなべ けいこ)	数学教育学	教員(小・中・高)	「算数・数学科の授業で先生と児童・生徒たちが如何にして対話をし、新たな知識を作り上げていくのか」について、具体的な教材(学習・指導の内容、具体的な問題)をもとに議論します。対話型授業の構造と展開を探究した上で、「話し合い」を取り入れた授業における教師の役割についても議論したいと思います。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
理科教育	細胞をつくっている物質・脂質	糸乗 前 (いとのり さき)	生化学	生徒(中・高)	生物を形作っている細胞は脂質でおおわれた袋で、その外側には特有の成分が含まれています。その成分を調べることは、細胞にとってあるいは生物にとって重要な情報を与えてくれます。本講義では「セラミド」などの、どこかで聞いたことのある脂質を含め、色々な生き物の脂質の話とどのように調べるかなどのお話をします。
理科教育	太陽の科学	大山 真満 (おおやま まさみつ)	太陽物理学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特)	太陽は、宇宙に浮かぶ平凡な星の一つに過ぎない。しかし、地球に直接的に影響を与え、その姿を詳細に観測できる唯一の恒星である。この太陽に焦点をあて、最新の画像や動画も用いながら、太陽の素顔を紹介する。
理科教育	コミュニケーション トレーニング	加納 圭 (かのう けい)	科学コミュニケーション	生徒(中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	滋賀大学に通う大学生が授業に求めていること第1位(滋賀大キャリア通信:サンクス2013年1月7日号より)であった「コミュニケーション能力」の向上を目指したトレーニングプログラムです。科学の内容について「伝える・伝わる・分かち合う」ができるようになります。
理科教育	物性物理学入門	恒川 雅典 (つねかわ まさのり)	物理学／ 物性物理学	生徒(高) 教員(高)	「物性」といってもなじみが薄いかもしれませんが、実は「物性物理学」は素粒子・原子核・宇宙物理学と並ぶ分野の1つです。最新の科学技術を根底から支えている物質科学の中でも物質の成り立ちや現象などを、量子力学や統計力学などの物理的な考え方・手法の立場から研究するのが「物性物理学」です。本講義では、身近な例をあげながら「物性物理学」についてお話しします。
理科教育	私たちの科学	徳田 陽明 (とくだ ようめい)	無機化学／ 物理化学	教員(小・中・高)	科学現象は私たちの身の回りにたくさんあります。この講座では、皆さんが不思議だなと感じる現象を題材にして、科学がそれをどのように説明するのかについてお話しします(例えば、なぜ虹が見えるのか、スマホで電話ができる仕組み等)。この講座を通じて、科学が生活をいかに豊かにしてきたかについて学びます。
理科教育	遺伝情報とは何か？	古橋 潔 (ふるはし きよし)	生物学	生徒(高)	生命科学は近年目覚ましい進歩を遂げていますが、DNAと遺伝子の違いはおわかりでしょうか？この講座では遺伝情報がどのようなもので、どのように使われているかについて、身近な例を挙げて、しかし最先端の技術によって得られた知見も盛り込みながら説明します。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
音楽教育	オーボエ演奏法／ 木管アンサンブル	中根 庸介 (なかね ようすけ)	オーボエ／ 木管合奏	生徒(中・高) 教員(中・高) 市民一般	オーボエの経験者を対象に、基本的奏法を学び、練習曲集などを用いて音楽的な表現を学びます。木管を中心としたアンサンブル(木管四重奏、五重奏、ピアノと管楽の五重奏、六重奏、など)を通して、より高度な音楽作りを学びます。
音楽教育	楽しい音楽づくり	林 睦 (はやし むつみ)	音楽教育	教員(幼・小・中・高・特)	音楽づくり、創作のワークショップをします。教師向けのワークショップや講習会、児童・生徒向けの授業のデモンストレーションもします。楽器がなくても、ピアノが弾けなくても、おもしろい音楽を作る方法があります。楽しく音楽をつくり、子どもたちが自らの表現に目覚める瞬間を一緒に体験できたらと思います。
音楽教育	音による表現を めぐって	若林 千春 (わかばやし ちはる)	作曲／音楽理論	教員(中・高・特) 保護者・市民一般	お芝居の台詞に、その場に適した演技があるように、音楽にもそれぞれ適切な表現の方向付けがあります。「ここで音楽はどんな台詞を演じているの?」という問題を、一緒に考えてみましょう。楽譜に書かれていない「とても大切なこと」を見つけたり、簡単な音楽文法のおさらいや、創作の実践などを通して、音による表現を共に深めてゆく場を体験してみましょう。
音楽教育	本当の「声」と出会う ～ヴォイス トレーニング～	渡邊 史 (わたなべ あや)	声楽	児童・生徒(小4年～・中・高) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般 その他(企業社内研修、 マナー講座等)	人間の表現ツール、コミュニケーション手段として「声」は重要な役割を担っています。みなさんの「声」の可能性を見つめなおしてみませんか? 発声ストレッチ、呼吸トレーニングを経て、身体を芯から使いながら「声」と向き合う時間です。歌に、そして朗読にも、ちょっとしたコツで生まれる大きな変化を楽しみにご参加ください。その「声」を用いた歌唱表現まで踏み込むことも可能です。歌唱、合唱等のブラッシュアップにも、機会をご活用ください。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
美術教育	入門アート ～ラクガキから アール・ブリュット まで～	藤田 昌宏 (ふじた まさひろ)	彫刻／現代美術	児童・生徒(小4年～・中・高) 教員(幼・小・中・高・特) その他(福祉関連作業所など)	ラクガキを描くことから始めます。ラクガキを見せあいっこし、ラクガキの名作を鑑賞？し、そこから見えてくる表現の楽しさ・不思議さを感じてみてください。そこからの展開は、「アールブリュット」「速写クロッキー」「エガオ絵」「目隠し彫刻」などなど、受講してくださる顔ぶれやリクエストでアレンジします。
美術教育	探究心が芽生える 教科横断型 ハイブリッド鑑賞	馬淵 哲 (まぶち さとし)	絵画/美術科教育	児童・生徒(小・中・高) 教員(小・中・高) 保護者・市民一般	伝統的美術から現代の製品デザインまで、身近な美術品を比較したり、対話したりしながら鑑賞します。子どもの探究心の芽を育てる鑑賞学習のヒントになればと思います。総合的な学習やSTEAM教育等、教科横断的な探究的学習の導入例としても提案したいと思います。
美術教育	学びが深まる 「造形遊び」 (子供の主体的な 探究活動としての 図画工作)	村田 透 (むらた とおる)	美術科教育	児童(4～5歳児・小) 教員(幼・小)	「造形遊び」は、準備や後片付けが大変で、抵抗があると思いませんか？「造形遊び」で、子供は楽しく意欲的だけど、「遊びの中に学びはあるの？」と思いませんか？「個性的だよね」「いろいろあっていいよね」で、子供の「造形遊び」への評価を思考停止にしていますか？「造形遊び」には、表現の多様性(現象)と学びの深まり(探究)があります。現場で明日から実践できる題材体験を通して、「造形遊び」の学び・楽しさ、題材開発、指導や支援の在り方について学びます。
美術教育	グラフィックデザイン の世界	世ノ一 善生 (よのいち よしお)	グラフィックデザイン	生徒(中・高) 教員(小・中・高) 保護者・市民一般	グラフィックデザインでは、ポスターや新聞広告などの広告物、パッケージ、雑誌、書籍装丁など様々なものを対象としますが、これらの多くは大量生産されて消費されてゆきます。しかしそのようなものだから、漫然と作られた価値の低いものという訳ではありません。ここでは図版資料を提示しながらその素晴らしさについてお話ししたいと思います。
保健体育教育	①ストレスと上手に 付き合う方法 ②良質な睡眠とは	大平 雅子 (おおひら まさこ)	衛生学/健康科学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	①誰もが聞いたことがあるストレスという言葉。その言葉の本来の意味を解説しながら、ストレスと「上手に付き合う」方法について様々な視点から考えていきます。 ②エビデンスに基づいて、良質な睡眠とは一体何かを考えていきます。
保健体育教育	運動好きの子どもを 育てる体育の授業 づくり	山田 淳子 (やまだ じゅんこ)	体育科教育	児童(幼・小) 教員(幼・小)	教師も子どもも運動が大好きになれる体育科の授業づくりを、実技や講義を通して学んでいただければと思います。体育科の授業づくりのヒントとなる事柄を紹介していきます。子ども向けにも模擬授業を行い、子どもも教師もともに学ぶ場を提供したいと思います。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
情報・ 技術教育	教育工学的手法を用いた教育環境の改善	岩井 憲一 (いわい けんいち)	認知科学／ 教育工学	生徒(中・高) 保護者	教育環境は、慢性的な人材・予算不足等の問題から、これまで以上に質の高い教員の採用や情報ネットワークの導入による資源の共有、および、新しい教育手法の検討が求められています。 本講座では、これまで行ってきた学習指導案の電子化や情報ネットワーク環境等の ICT 導入事例を通じて教育環境の電子化について提案します。
情報・ 技術教育	一本の木から椅子をつくる	岳野 公人 (たけの きみひと)	技術教育／ 環境教育	教員(幼・小・中・高・特) 市民一般	森林環境の有効利用の観点から、伐採から製材、椅子作りのプロセスをすべて人間の手でおこなう方法を紹介する。 米国では、グリーンウッドワーキングといい、日本の木地師が山にこもって、器づくりをしていたころの技術と同様の伝統的な手法である。作業できる場所が確保できれば、実際の作業を体験するワークショップを開催することもできる。
情報・ 技術教育	動物の行動を真似るロボット	右田 正夫 (みぎた まさお)	認知科学／ ロボット工学	生徒(高)	外界からの情報に応じて、自ら適切な行動を選択できるロボットを総称して「自律ロボット」といいます。 自律ロボットが動作する環境はとても複雑ですが、さまざまな動物の行動様式を真似てロボットの行動をデザインすることでうまく対処できる場合があります。 本講義では、そのような自律ロボットの研究事例を紹介します。
情報・ 技術教育	複雑系入門 ーフラクタルとは何だろうー	水上 善博 (みずかみ よしひろ)	コンピュータ シミュレーション	生徒(高)	海岸線や川の流れ、雲の形や木の枝ぶりなど、自然の造形には複雑な形をしているものが多く見られます。複雑な形をした図形の特徴を表す方法にフラクタルがあります。 本講義では、フラクタルという考え方を分かりやすく解説し、形の複雑さを知るための指標としてのフラクタル次元の求め方を学びます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
家庭科教育	何をどう食べる？ －自分のための食べ物、食べ方－	久保 加織 (くぼ かおり)	食物学	教員(小・中・高・特) 市民一般	誰もがいつでも食べたいものを食べられる現在であるからこそ、どの年代の人 も自分の健康のためには何をどれだけどのように食べるのがいいか、きちんと 理解しておくことが大切です。 様々な情報と食品表示が氾濫する中で、自分のための食材選びと食べ方につ いて考えます。(具体的にどのような点に重点をおくかは、対象者に応じて相談 させていただきます。)
家庭科教育	くつろぎの住まい	田中 宏子 (たなか ひろこ)	住居学	児童・生徒(小・中・高) 教員(幼・小・中・高・特) 市民一般	住まいは、雨や風、暑さ・寒さや様々な過酷な自然現象から人々を守る役割が あります。また、そこで暮らす人々がゆっくりと休養し、エネルギーを蓄えるな ど、住まいは人々の心身の健康を維持する役割もっています。これらの役割 を果たすためにはどのような工夫が必要でしょうか、ともに考えてみたいと思 います。
家庭科教育	家族の機能	平松 紀代子 (ひらまつ きよこ)	家庭経営学	児童・生徒(幼・小・中・高) 教員(幼・小・中・高) 保護者・市民一般	家族の存在はどのような機能を果たしているだろうか。 社会で一番小さい組織(システム)である家族について、客観的に振り返り、時 代、国、あるいは同じ時代に同じ地域に暮らしていても異なる家庭の文化にも目 配りしつつ、それぞれの価値観の違いをふまえ、それぞれの価値観を尊重する ことの大切さについてお話しします。
英語教育	イマージョン教育と 英語学習	田中 佑美 (たなか ゆみ)	英語教育学	教員(小・中)	本講義では、イマージョン教育と英語学習、特に英語学習に対する動機づけに ついてお話しします。 イマージョン教育はカナダで始まった第二言語を使って理科や社会などの教科 を指導するバイリンガル教育の一つです。 日本における英語によるイマージョン教育にも触れながら、英語を通して教科を 学ぶことによる英語学習と英語学習に対する動機づけについてご紹介します。
英語教育	英語の効果的な 学習方法・英語の指導 法	新本 庄悟 (にいもと しょうご)	英語教育学・ 英語科教育	生徒(中・高)・ 教員(中・高)	英語学習における効果的な学習法を実際に体験しながら、今後の英語学習の 方向性を探ります。 また、中高の英語教員の方を対象に実践的な英語教授法を紹介します。
英語教育	アメリカ小説を読む	林 直生 (はやし なお)	アメリカ文学／ アメリカ文化	市民一般	詩や小説などの文学作品は、それ自体が独立して存在するのではなく、作家が 作品を執筆した当時またはそれ以前の時代の社会や文化と密接な関わりを 持っています。 この講義では、主に 20 世紀前半のアメリカで書かれた小説を取り上げて、作品 とその背景について見ていきます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
学校教育	子どもたちの心の支援とマインドフルネス	芦谷 道子 (あしたに みちこ)	臨床心理学	教員(幼・小・中・高) 保護者・市民一般	マインドフルネスとは、「今この瞬間の経験に、価値判断を加えずに意図的に注意を向けること(Jon Kabat-Zinn)」と定義され、さまざまな感覚や感情を優しくあるがままに受け入れ、ゆるす態度を涵養します。プラクティスを続けると、集中力やパフォーマンス、幸福感の向上、抑うつなどの否定的感情の低下や脳機能の改善といった効果があることが、科学的に示唆されています。本講演では、マインドフルネスについてやさしく解説し、教育におけるマインドフルネスの導入についてご紹介します。簡単なプラクティスも体験していただきます。
学校教育	教師－生徒関係の変容とこれから	太田 拓紀 (おおた ひろき)	教育社会学	教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	現在、教師と児童・生徒との関係性における危機が広く叫ばれています。では、過去の教師と生徒の関係は良好だったのでしょうか。そもそも、問題視されはじめるのは、いつ頃からでしょうか。この講義では、わが国における教師－生徒関係の歴史的変化を概観し、その上で、今後の望ましい関係性のあり方について考えてみたいと思います。
学校教育	他者理解のコミュニケーション心理学	蔵永 瞳 (くらなが ひとみ)	社会心理学	教員(幼・小・特) 保護者・市民一般	人間は、他者とたくさんのコミュニケーションをとりながら生活する生物です。本講座では、対人コミュニケーションのメカニズムとつまずきのポイント、人間が持つコミュニケーション能力の基盤である「他者の気持ちを理解する」力について、心理学の観点からお話します。
学校教育	比較教育学で教育を考える	児玉 奈々 (こだま なな)	比較教育学	教員(幼・小・中・高・特) 保護者・市民一般	比較教育学は、諸外国の教育事象を対象に教育と社会のつながりを考察する学問領域です。この講義では、現代の日本の学校で課題となっていることの諸外国における状況や各国の解決策を見ていきます。諸外国の教育事象の考察を通して、日本の学校の当たり前が海外の学校では当たり前ではないことに気づき、教育と社会のつながりを知り、さらには、人間にとって教育や学校はどんな意味を持つものなのか、教育や学校の本質について考えることを目指します。
学校教育	外国ルーツの子どもたちの教育	児玉 奈々 (こだま なな)	比較教育学	教員(幼・小・中・高・特)	外国ルーツの子どもなど多様な文化的・言語的背景をもつ子どもの在籍する学校が増えています。子どもの教育的ニーズを適切にとらえて学びと育ちを支援するために、教員にはどのような視点や意識が必要でしょうか。カナダやアメリカで行われている多文化教師教育ワークショップの体験を通して、考えていきます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
学校教育	教育法規を読み解く	藤村 祐子 (ふじむら ゆうこ)	学校教育講座 (教育制度学)	教員(小・中)	教育法規は、教育の枠組みとなる重要な要素です。様々な教育改革が進められる中で、教育法規に目を通し、教育に何が求められ、どの方向に進もうとしているのか、改めて考えてみたいと思います。
学校教育	キャリア教育の 理解と推進	若松 養亮 (わかまつ ようすけ)	キャリア心理学	教員(幼・小・中・高・特)	進路指導や就職指導と混同されがちなキャリア教育について、その出自や必要性、中教審答申に示された内容について解説し、具体的な推進方法や運営上の課題について、これまでの実践例にふれながらお話しします。
学校教育	子どもが「こころ」 に気づく時	渡部 雅之 (わたなべ まさゆき)	発達心理学	教員(幼・小・特) 保護者・市民一般	幼い子どもたちは、自分自身の中にある「こころ」という存在を、十分に意識することができません。 他の人間にも「こころ」があり、それが自分の「こころ」と同じ働きをしていることに気づくことで、他者への共感や理解が深まります。こうした「こころ」への気づきの発達過程についてお話しします。
学校教育	育みたい学力に応じた 評価課題づくり	山本 はるか (やまもと はるか)	教育方法学	教員(小・中・高)	子どもたちに育みたい学力をどのように考えるのか、その学力を見取る評価課題をどのように作るのかについて、ワークショップ形式で進めていきます。
幼児教育	幼児期の遊びを豊か にする環境構成	山本 一成 (やまもと いっせい)	幼児教育学	生徒(高) 教員(幼・小)	幼児は遊びを通して様々なことを学んでいきます。 そして、幼児が夢中になって遊ぶためには、子どもたちの遊びを可能にする環境が整えられている必要があります。この講座では、子どもの遊びの大切さや、遊びにかかわる環境の在り方について、理論と実践の両面から学んでいきます。
障害児 教育	子どもの 小さなサインから考える 重症心身障害児の 理解と支援	石田 基起 (いしだ もとき)	障害児教育・ 障害児生理心理学	教員(幼・小・中・高・特) 保護者 その他(福祉関連作業所など)	重い障害のある子どもたちは、自分の気持ちや意思を言葉で伝えることが難しいことがあります。本講義では、表情や視線、姿勢の変化といった行動的なサインに加え、心拍や皮膚温の変化などの生理心理学的な視点から、子どもが何を感じているのかを読み取るヒントを探ります。 具体的な事例をもとに、子どもたちの小さな反応にどう寄り添い、どのような関わりができるかを、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
障害児教育	ちょっと気になる子どもたちの発達と教育	窪田 知子 (くぼた ともこ)	特別支援教育	教員(幼・小) 保護者	私たちの身のまわりにいる“ちょっと気になる子どもたち(主に、発達障害の子どもたち)”のことをどう理解すればよいのか？家庭や学校でどのような関わりをすれば、彼らの健やかな育ちを支え励ますことができるのか？保護者とうまく連携するには…？などのテーマについて、一緒に考えてみたいと思います。
障害児教育	支援の必要な子どもと教育	羽山 裕子 (はやま ゆうこ)	障害児教育	教員(小・中)	通常学校に在籍する支援の必要な子どもたちは、学校生活のどこにつまずきを抱えがちなのか、どのような支援が可能なのか、一緒に考えていきたいと思います。
障害児教育	「気になる」児童・生徒の発達の理解と支援	松島 明日香 (まつしま あすか)	障害児心理	教員(幼・小・中・特) 保護者	友達とトラブルになる、じっとしていられないなど、対人面や行動面において「気になる」児童・生徒の存在が注目されています。その支援と対応には彼らの困難さを発達の的に理解していくことが重要です。本講義では、この時期の発達を通して「気になる」児童・生徒の困難さをどのように理解し、対応していけば良いのかについて考えます。
環境教育	湖沼の生態系	石川 俊之 (いしかわ としゆき)	湖沼生態学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 市民一般	湖沼の水の中には一見すると何もないように見えます。しかし、そこには目に見えない小さな生き物が活躍する実に豊かな世界があります。琵琶湖を例に生物と生息環境の関係について考え、自然環境を大切にするためにできることを考えます。
環境教育	食料生産と環境	森 太郎 (もり たろう)	園芸学/植物病理学	児童・生徒(幼・小・中・高・特) 教員(幼・小・中・高・特) 市民一般	私たちの生活に欠かせない食料生産と環境との関係について、食料生産は環境にどのような影響を与えているのか？一方、食料生産は環境からどのような影響を受けているのか？の観点から講義し、持続可能な食料生産について考えます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
教職 大学院	教師の変容と省察を 促す研修会の創造	青木 善治 (あおき よしはる)	教育方法学	教員(小・中)	「主体的・対話的で深い学び」の実現の上で不可欠な要因があります。それは、そもそも教師が一人ひとりの子どもの学びの姿をしっかりととらえることができないければ始まりません。しかしながら、教師自身の見方や感じ方を一人でとらえ直すことはなかなか難しいことです。そこで、令和2年度まで新潟県内の小学校校長として研修による学校経営を行ってきた経験もいかし、私たち教師が生涯に渡って学び続け、変容し省察しやすい研修会を授業研究時の事後協議会を活用して行います。
教職 大学院	コーチングを意識するだけで子どもが変わる○ ○の方法 ～子どもを伸ばす先生、ダメにする先生、その違いはここに あった！	青木 善治 (あおき よしはる)	教師教育	若手～中堅教員(小・中)	子どもを伸ばす先生、ダメにする先生、その違いはどこにあるのでしょうか。実は、コーチングを意識するだけで子どもが変わる様々な方法について、具体的に楽しみながら紹介します。令和2年度まで新潟県内の小学校校長として学校経営を行ってきた経験もいかして行います。
教職 大学院	作品をみる・つくる、 楽しく鑑賞する指導の アイデア	青木 善治 (あおき よしはる)	美術科教育	教員(幼・小・中)	新潟県立近代美術館勤務の経験もある講師が、「対話型鑑賞(朝鑑賞)」や「アートカード」や「造形遊び」に関する活動など、楽しく表したり、鑑賞したりする指導のアイデア満載な研修会 を行います。
教職 大学院	幼児の健康と生活	奥田 援史 (おくだ えんじ)	健康教育	教員(幼) 保護者	幼児の健康と生活の関連について概説します。 また、「幼児期運動指針」(文部科学省)を解説します。
教職 大学院	暮らしと消費と環境	岸田 蘭子 (きしだ らんこ)	家庭科教育	教員(小・中・高)	新学習指導要領でも重視されている「消費と環境」についての教材開発や授業実践についての解説を行います。受講者主体のワークショップ型の講座で、小・中・高対象ですが、学校種別でも合同型でも対応できます。

分野	講義題目	講師	専門	対象	内容
教職 大学院	社会科の学力と パフォーマンス評価	岸本 実 (きしもと みのる)	社会科教育	教員(小・中・高)	社会科の思考・判断・表現の学力を身につけさせるために、パフォーマンス評価の指導と実践が求められています。授業の中の15～20分の中心活動、1時間そして1単元の授業など、生徒の思考・判断・表現のパフォーマンスをどのように指導し、評価すればよいのか、ワークショップ形式で考察します。
教職 大学院	新しい時代が 求める資質・能力 を伸ばす教育課程・ 指導・評価	岸本 実 (きしもと みのる)	教育方法学	教員(小・中・高)	新しい学習指導要領により整理された、新しい時代が求める資質・能力を伸ばすためには、学校を基礎に教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントを適切に実施していくことが求められています。また単元や授業において確実にその資質・能力を身につけさせる学習指導と評価の在り方が問われています。本講座では、学校、学年、教科など学習者の状況に合わせて、これらの問題を考察します。
教職 大学院	国語科の授業づくり	北村 拓也 (きたむら たくや)	国語科教育	教員(小・中)	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した国語科の授業づくりについて、実際の授業や指導案を通して検討します。
教職 大学院	算数・数学科における 統計の授業	詫摩 京未 (たくま きょうみ)	算数・数学教育／ データサイエンス	児童・生徒(小・中) 教員(小・中)	算数・数学の教科書には、すでに収集されたきれいなデータが掲載されており、それらを基にして整理・分析し、考察しながら、学習をすすめます。ここで学んだことを実際に活用するためには、子どもたちが自分でデータを収集するところから体験させる場面を授業に取り入れることは大切であると考えます。そこで、本講義では、与えられたデータではなく、実際に自分たちでデータを集めてみるところから始める授業作りについて考えていきたいと思います。
教職 大学院	校園長としての 学校危機管理	田中 満 (たなか みつる)	学校経営	園長・校長(幼・小・中)	学校は、幼児・児童・生徒が安心して過ごせる場所ではなくてはなりません。学校の最高責任者であり多くの子どもたち・教職員を預かる重要なポジションにある校園長は、徹底した危機管理を図る必要があります。校園長の役割を確認しながら、管理職としての学校危機管理を考えます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
教職 大学院	体育授業における 指導と評価の一体化	辻 延浩 (つじ のぶひろ)	体育科教育	教員(小・中・高)	子どもたちが学び合い育ち合う体育授業はどのように実現できるのか。いま教師に求められる考え方や指導性はどのようなものか、協同的な学びをどのようにデザインし、評価していけばよいのか等、学習集団づくりの理論と方法について考えていきましょう。
教職 大学院	「モンスターペアレント 問題」を読み解く視座	西野 倫世 (にし の みちよ)	教育行政学	教員(幼・小・中・高・特)	特に2000年代以降、保護者からの理不尽な要求が急増し、社会問題となってきました。本講義では、いわゆる「モンスターペアレント問題」がなぜ生じてきたのか、その背景を確認した上で、この問題をめぐる論点・視座について考えを深めたいと思います。
教職 大学院	学校における 人材育成	前田 利幸 (まえだ としゆき)	教師教育/ 学校経営	若手～中堅教員(小・中) 管理職(小・中)	今日、学校現場では教職員の多忙化が深刻な課題であり、働き方改革の推進が求められています。さらに滋賀県の教職員の年齢構成からも学校現場での人材育成は喫緊の課題となっています。このような状況下、多忙な学校現場においていかに効率よく計画的に人材育成を進めるのか、また教育課題解決に向けていかに学校組織力を向上させていくのか、校長のリーダーシップとマネジメント力が求められます。教員の各ステージに合わせて、明るく元気に学び続ける教職員を応援できるよう自身の経験を活かして研修を行います。
教職 大学院	科学教育における 話し合い活動 -「滝をのぼる水滴」を 事例として-	山岡 武邦 (やまおか たけくに)	データサイエンス	児童・生徒(小・中・高) 教員・市民一般	本講義では、科学教育における話し合い活動に焦点化し、深い学びの実現を目指す授業づくりについて検討します。具体的には、錯視に関する実験を行い、話し合い活動を取り入れながら自然現象を理解し、そこで得たデータを解釈していくプロセスを体験します。
教職 大学院	障害のある 子どもの支援	山川 直孝 (やまかわ なおたか)	特別支援教育	教員(幼・小・中・高・特)	勉強が苦手だったり、集団生活になじめなかったりする子どもが少なくありません。障害の状態やそれに伴う学びにくさは多様かつ個人差が大きく、個別最適化した学びが求められます。心理アセスメントの紹介や気になる行動をする理由、子どもの長所を生かした対応などについて、自立と社会参加を見据えながら考えていきます。

分 野	講義題目	講 師	専 門	対 象	内 容
教職 大学院	全国学力・学習状況 調査から考える算数・ 数学科の授業づくり	山下 亮 (やました りょう)	数学科教育	教員(小・中)	全国学力・学習状況調査の調査問題は、学習指導要領が求める育成を目指す 資質・能力を踏まえ、その具体的なメッセージとして示されています。この調査 問題をもとに、算数・数学科の授業づくりについて考えます。